

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	JA熊本県会館	階数	地上10F		
建設地	熊本市中央区南千反畑町2番3号	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	496 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	0 時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2014年11月7日		
敷地面積	4,220 m ²	作成者			
建築面積	1,251 m ²	確認日			
延床面積	10,581 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果																																				
■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)																																				
			BEE = 1.3	■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$																																
			■環境効率評価基準																																	
			<table><tr><th rowspan="2">ランク</th><th rowspan="2">ランク表示</th><th rowspan="2">評価</th><th colspan="2">判定値</th></tr><tr><th>BEE値</th><th>Q値</th></tr><tr><td>S</td><td>★★★★★★</td><td>素晴らしい</td><td>3.0以上</td><td>50以上</td></tr><tr><td>A</td><td>★★★★★</td><td>大変良い</td><td>1.5以上3.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B⁺</td><td>★★★★</td><td>良い</td><td>1.0以上1.5未満</td><td>—</td></tr><tr><td>B⁻</td><td>★★★</td><td>やや劣る</td><td>0.5以上1.0未満</td><td>—</td></tr><tr><td>C</td><td>★</td><td>劣る</td><td>0.5未満</td><td>—</td></tr></table>		ランク	ランク表示	評価	判定値		BEE値	Q値	S	★★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上	A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—	B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—	B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—	C	★	劣る	0.5未満	—
ランク	ランク表示	評価	判定値																																	
			BEE値	Q値																																
S	★★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上																																
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—																																
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—																																
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—																																
C	★	劣る	0.5未満	—																																
■ ライフサイクルCO ₂ 排出性能(ランク表示)			排出率																																	
			87%																																	
			■ライフサイクルCO ₂ 排出性能評価基準																																	
			<table><tr><th>判定値(排出率)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>30%以下</td><td>☆☆☆☆☆</td></tr><tr><td>30%超60%以下</td><td>☆☆☆☆</td></tr><tr><td>60%超80%以下</td><td>☆☆☆</td></tr><tr><td>80%超100%以下</td><td>☆☆</td></tr><tr><td>100%超</td><td>☆</td></tr></table>		判定値(排出率)	ランク表示	30%以下	☆☆☆☆☆	30%超60%以下	☆☆☆☆	60%超80%以下	☆☆☆	80%超100%以下	☆☆	100%超	☆																				
判定値(排出率)	ランク表示																																			
30%以下	☆☆☆☆☆																																			
30%超60%以下	☆☆☆☆																																			
60%超80%以下	☆☆☆																																			
80%超100%以下	☆☆																																			
100%超	☆																																			

2 熊本県重点評価結果	
重点事項総合評価	
	
評価点	
81	

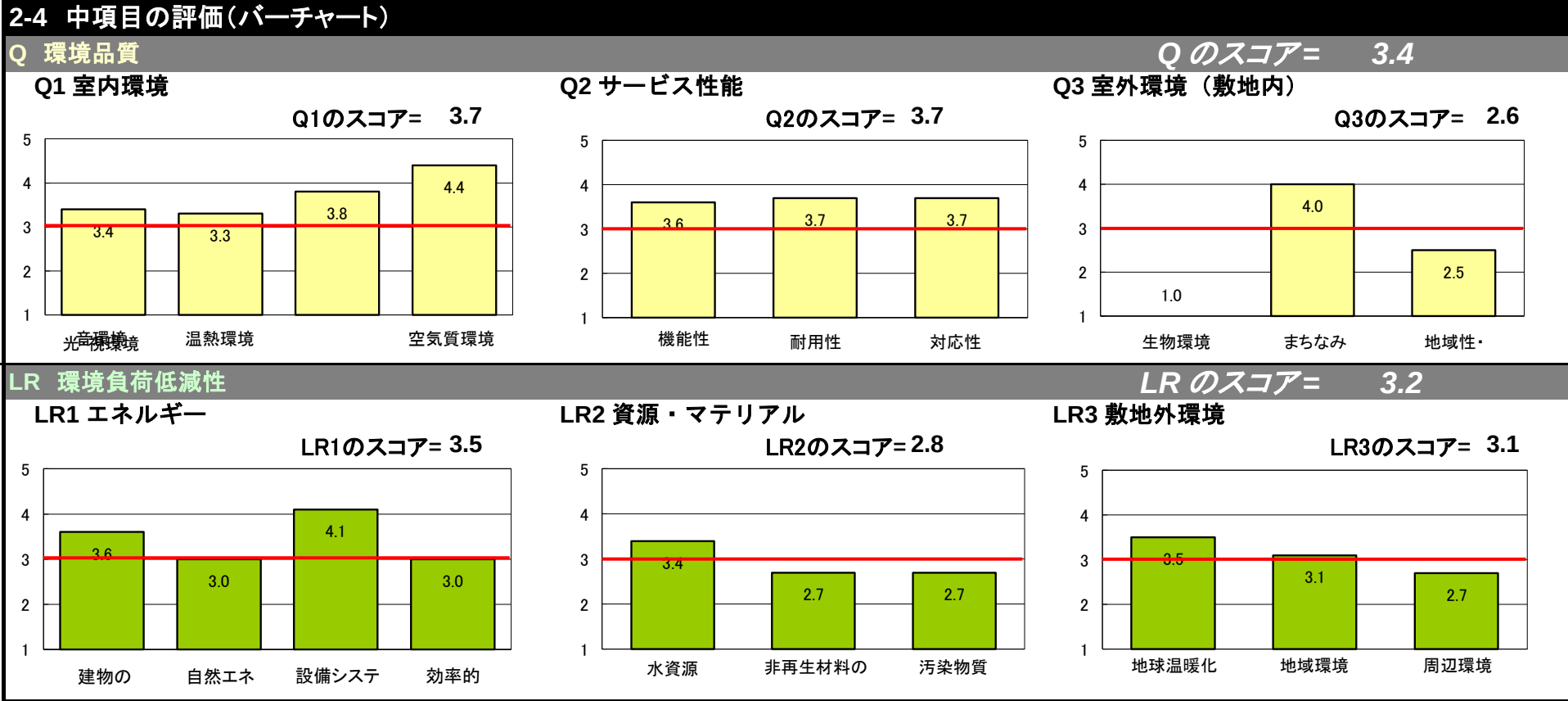
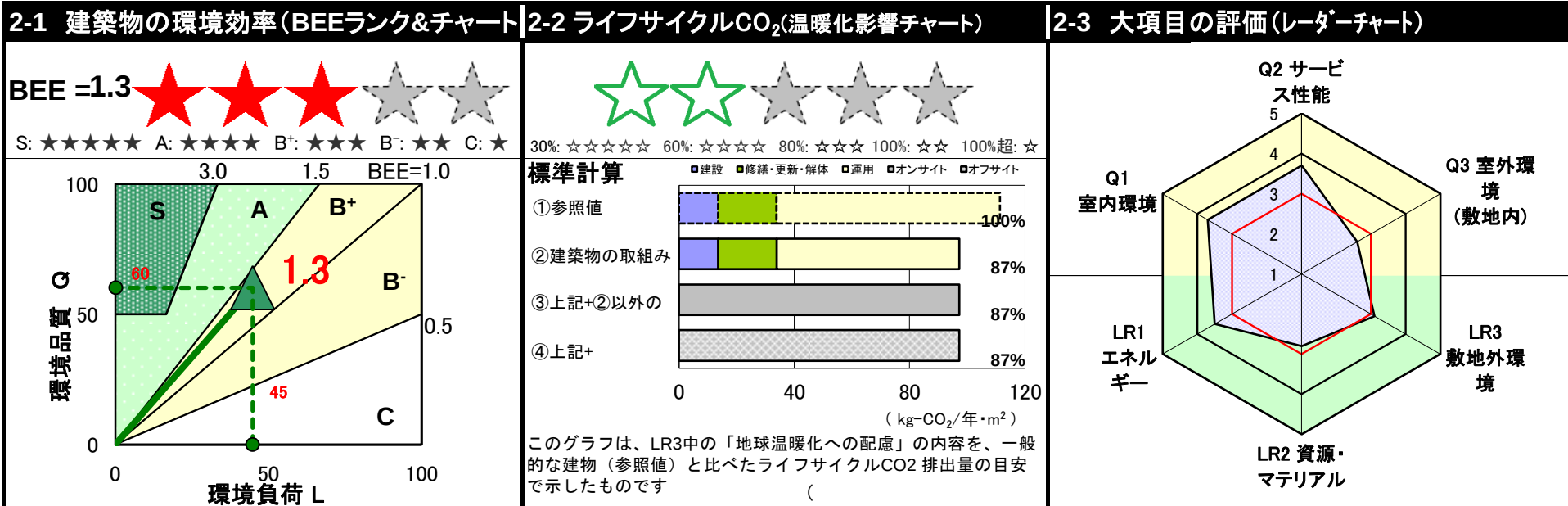
	評価点	熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	91.7	<table><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	67.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	80.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	76.5													

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JA熊本県会館	階数	地上10F
建設地	熊本市中央区南千反畑町2番3号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	496 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	0 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2014年11月7日
敷地面積	4,220 m ²	作成者	
建築面積	1,251 m ²	確認日	
延床面積	10,581 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版			■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版		CASBEE-NCb_2010(v.1.3)				
JA熊本県会館			欄に数値またはコメントを記入						
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点への転記	み数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.4	
Q1 室内環境				0.40				3.7	
1 音環境				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 騒音			T-2以上	3.0	0.40	-	-		
1 室内騒音レベル		3.0		1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-		-	-	-			
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		5.0		0.60	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0		0.40	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0		-	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0		-	3.0	-			
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境				3.3	0.35	-	-	3.3	
2.1 室温制御			25～45m2程度で空調ゾーニング、ゾーンごとに冷房・暖房切替可	3.7	0.50	-	-		
1 室温		3.0		0.38	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-		-	-	-			
3 外皮性能		3.0		0.25	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		5.0		0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-		-	-	-			
6 個別制御		-		-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-		-	-	-			
8 監視システム		-		-	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境				3.8	0.25	-	-	3.8	
3.1 屋光利用			庇、ブラインドの設置	3.0	0.30	-	-		
1 屋光率		3.0		0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-		-	3.0	-			
3 屋光利用設備		3.0		0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 照明器具のグレア		-		-	-	-			
2 屋光制御		4.0		1.00	3.0	-			
3 映り込み対策		-		-	-	-			
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.4	0.25	-	-	4.4	
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆の積極的な採用	5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		5.0		1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-		-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-		-	-	-			
4 レジオネラ対策		-		-	-	-			
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		
1 換気量		3.0		0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0		0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		5.0		0.33	3.0	-			
4 給気計画		-		-	-	-			
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		3.0		0.50	-	-			
2 喫煙の制御		5.0		0.50	-	-			
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	3.7		
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6	
1.1 機能性・使いやすさ			コンセント容量:40VA/m2以上	3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		3.0		0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		4.0		0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0		0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		事務室天井高 2.7m	4.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		コンセプトの設定、照明計画と内装計画の一体化、モックアップ検討	3.0	0.33	-	-			
3 内装計画			4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		防汚性の高い仕上げ(内壁、床面、外壁)	4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		清掃控室、清掃用具、清掃用流しの設置他	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務			-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				3.7	0.31	-	-	3.7	
2.1 耐震・免震			建築基準法規定の1.25倍	3.8	0.48	-	-		
1 耐震性		4.0		0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0		0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		3.0		0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		花崗岩打込(25年)		4.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出、外気取入ダクトを全てガルバリウム鋼板ダクト		5.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種以上にCを使用(給水:VLP、排水:VP、給湯:SUS)		4.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

	2.3 適切な更新			-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用、汚水貯留槽の設置	4.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	非常用発電機の設置、浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化、浸水の危険なし	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.7	0.29	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				4.0	0.31	-	-	
1			階高:3.85m	4.0	0.60	3.0	-	
2			壁長さ比率 0.16	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			床荷重:4900N/m2	4.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.38	-	-	
1			空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-	
2			給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-	
3			電気配線の更新性	5.0	0.11	-	-	
4			通信配線の更新性	5.0	0.11	-	-	
5			設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-	
6			バックアップスペースの確保	3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			周辺環境との調和、緑地による景観形成	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			low-E複層ガラスの採用	3.6	0.30	-	-	3.6
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化			LED照明、高顕熱型室外機の採用	4.1	0.30	-	-	4.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR=17%	4.1		-	-	
集合住宅の評価				3.0		-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			擬音装置、節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			内装材と設備を錯綜させない(GL工法の採用)	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.7	0.22	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				2.6	0.68	-	-	
1			消火剤	2.0	0.33	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	3.0	0.33	-	-	
3			冷媒	3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			特になし	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の使用なし	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.6	0.25	-	-	
1			雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3			交通負荷抑制	5.0	0.33	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1			騒音	3.0	0.50	-	-	
2			振動	3.0	0.50	-	-	
3			悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				1.6	0.40	-	-	
1			風害の抑制	1.0	0.70	-	-	
2			砂塵の抑制	1.0	-	-	-	
3			日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

将来にわたり価値を維持できる建物をつくることをめざし、

- 「機能的で使いやすいこと」
- 「長く使えること」
- 「高い安全性を備えること」
- 「効果的な省エネ」

に配慮した設計

Q1 室内環境

- ・25～45m²程度での空調ゾーニング、ゾーンごとに冷房・暖房切替可能
- ・庇、ブラインドの設置による昼光制御
- ・1作業単位での点灯、消灯可能な照明制御
- ・F☆☆☆☆材料の積極的な採用

Q2 サービス性能

- ・コンセント容量40VA/m²以上による高度情報通信設備対応
- ・防汚性の高い仕上げ材採用による維持管理に配慮
- ・建築基準法規定1.25倍の耐震性の確保
- ・節水器具、汚水貯留槽、非常用発電機、通信手段の多様化による信頼性の向上

Q3 室外環境（敷地内）

- ・周辺環境との調和、緑地による景観形成

LR1 エネルギー

- ・low-E複層ガラスの採用による熱負荷抑制
- ・LED照明、高顕熱型室外機の採用による設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

- ・擬音装置、節水型器具の採用による節水
- ・GL工法の採用による部材の再利用可能性の向上

LR3 敷地外環境

- ・燃焼器具を使用しないことによる大気汚染防止
- ・自転車置場、駐車場の確保による交通負荷の抑制
- ・光害対策ガイドライン、広告物照明の取り扱いを満たす事による光害対策

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 JA熊本県会館

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		81.5
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.7	0.40	36.68
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.6	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数